

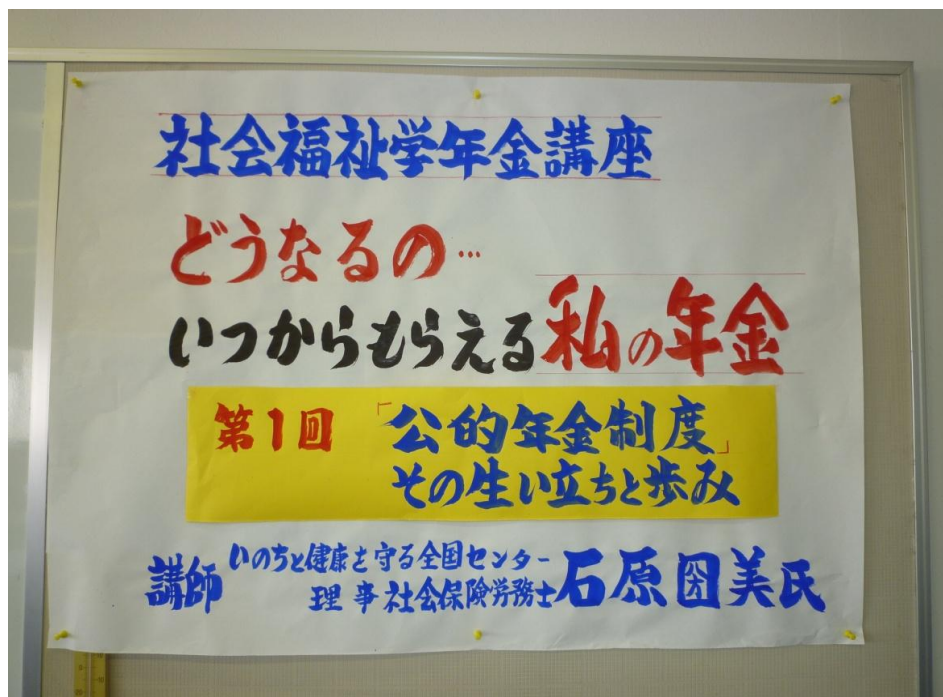
# 新しい講座が始まりました

【報告:S. K&T. A 2013/9/2】

9月1日(日)から、第36期(2013年度)の新时期開設講座である「社会福祉学年金講座」が始まりました。

少子高齢化社会・老々介護社会が到来している今日、年金・医療・介護保険料の負担増等、成熟化した日本社会の構造が、大きな転換期を迎えています。そこで富士見市民大学では今年度から、知っているようで意外に知らないことが多い、年金問題についての学習を開始しました。

当日は、講師にいのちと健康を守る全国センター理事で、社会保険労務士の石原園美先生をお招きして、向学心に溢れた多くの市民の皆さんが参加され、熱心に受講されました。



第1回は「公的年金制度その生い立ちと歩み」と題して、年金制度が出来た背景や、度重なる制度改正等、年金制度全般に亘り講義頂きました。

最も関心を持ったことは、そもそも日本で最初に年金制度を考えたのは会津藩であったこと。しかも保科正之は何と埼玉県の出身であることから、富士見市民としても学習する意欲が一層湧いてきました。

10月20日(日)まで5回シリーズで開催します。お席に多少の余裕がございます。次回以降も、多くの市民の皆さまのご参加をお待ちしております。

## <受講風景>

